

『キリストに望みをおいて』 エペソ1:8-14

1:8 神はその恵みをさらに増し加えて、あらゆる知恵と悟りとをわたしたちに賜わり、
1:9 御旨の奥義を、自らあらかじめ定められた計画に従って、わたしたちに示して下さいだったのである。

1:10 それは、時の満ちるに及んで実現されるご計画にほかならない。それによって、神は天にあるもの地にあるものを、ことごとく、キリストにあって一つに帰せしめようとされたのである。

1:11 わたしたちは、御旨の欲するままにすべての事をなさるかたの目的の下に、キリストにあってあらかじめ定められ、神の民として選ばれたのである。

1:12 それは、早くからキリストに望みをおいているわたしたちが、神の栄光をほめたたえる者となるためである。

1:13 あなたがたもまた、キリストにあって、真理の言葉、すなわち、あなたがたの救の福音を聞き、また、彼を信じた結果、約束された聖霊の証印をおされたのである。

1:14 この聖霊は、わたしたちが神の国をつぐことの保証であって、やがて神につける者が全くあがなわれ、神の栄光をほめたたえるに至るためである。

○序論

少し前のところにもこうあります。

1:4 みまえにきよく傷のない者となるようにと、天地の造られる前から、キリストにあってわたしたちを選び、

1:5 わたしたちに、イエス・キリストによって神の子たる身分を授けるようにと、御旨のよしとするとところに従い、愛のうちにあらかじめ定めて下さったのである。

さて、昨年暮れ、ひとりの有名な俳優が洗礼を受けたというニュースに流れました。デンゼル・ワシントンというアカデミー賞も受賞。

どのニュースでも取り上げられている彼の言葉があります。

「時間はかかったけど、私はようやくここに来れました。もし（神が）私にこんなことをできるのなら、できないことなんて何もありません。可能性はまさに無限大です」

彼は、神が自分を導いてくださったことを告白しています。神は私にさえ、こんなことをがしてくださった！と。それは、わたしたちにも言えることなのです。

今日その恵みの感動を心に思い起こしつつ、読んでまいりたいと願います。

○本論

I. 神が思いを示して下さること。

1:7 わたしたちは、御子にあって、神の豊かな恵みのゆえに、その血によるあがない、すなわち、罪過のゆるしを受けたのである。

わたしたちは、まず、御子キリストにあって救いを受け取りました。罪の赦しを受け取ったのです。そのことを「神の豊かな恵み」と表し語られています。

その上で、”この恵みがさらに増し加えられる事実”を今日読んでいます。

1:8-9 神はその恵みをさらに増し加えて、あらゆる知恵と悟りとをわたしたちに賜わり、御旨の奥義を、自らあらかじめ定められた計画に従って、わたしたちに示して下さいだったのである。

恵みがさらに増し加えられ、「あらゆる知恵と悟り」をいただく。そして神さまの「御旨の奥義」を示して下さいとあります。

1:10 それは、時の満ちるに及んで実現されるご計画にほかならない。それによって、神は天にあるもの地にあるものを、ことごとく、キリストにあって一つに帰せしめようとされたのである。

「時が満ちる」という表現は、かつてイエスさまご降誕、最初の来臨を示しています。しかし、時の満ちるに及んで、神は御子を女から生れさせ、律法の下に生れさせて、おつかわしになった。(ガラテヤ4:4)

「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」(マルコ1:15)

それは福音の始まりです。そして今日お読みしたところは、その完成です。

キリストが再び来られる、再臨によって、すべてのものはことごとくキリストのもとにひとつにされて、全世界の混乱や反目はおさまり、すべての秩序がキリストのもとに回復される。そういう日が来るということです。

今、世界中が長く続く争いをおさめようと、さまざまな手を尽くしています。わたしたちは信じて生きることとこの世の問題を別々に考えることはないでしょうか？

忘れてはなりません。わたしたちが信じる神は、歴史を持おさめる方です。この時代の先に、キリストが再び来られておさめる、という希望が示されています。

それは、時の満ちるに及んで実現されるご計画にほかならない。(1:10)

このことを知り、またこのキリストに希望を置いて、今を生きること、それがわたしたちにゆだねられた「知恵と悟り」をもった生き方です。

この希望があるからこそ、わたしたちはどんなに閉塞的な時代をも、キリストにあって誠実に、よく生きる者となることができる。それがキリスト者です。

II. 御国の相続者としてくださること。

1:11 (新改訳) この方において私たちは御国を受け継ぐものともなりました。クリスチャンの将来見る世界と祝福をこのところで示されています。

それを新改訳や新共同訳では、「御国を受け継ぐものとなる」と訳しています。これまでも聖書は、わたしたちに神の子となる祝福を語りました。その上で…

ガラテヤ4:6-7 このように、あなたがたは子であるのだから、神はわたしたちの心の中に、「アバ、父よ」と呼ぶ御子の霊を送って下さったのである。

したがって、あなたがたはもはや僕ではなく、子である。子である以上、また神による相続人である。

神が、わたしたちを神の御国の相続人として下さった…との自覚が、わたしたち

クリスチャンとしての尊厳を立て、今の生きざまを問うことになります。

わたしは、以前に心に浮かんだ言葉を、聖書に挟んでいました。

「将来の祝福された望みは、今の良い生きざまに直結する」

-コロサイ3:23-24 何をするにも、人に対してではなく、主に對してするように、心から働きなさい。あなたがたが知っているとおり、あなたがたは御国をつぐことを、報いとして主から受けるであろう。あなたがたは、主キリストに仕えているのである。

-1ペテロ1:3-5 ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神は、その豊かなあわれみにより、イエス・キリストを死人の中からよみがえらせ、それにより、わたしたちを新たに生れさせて生ける望みをいだかせ、あなたがたのために天にたくわえてある、朽ちず汚れず、しぼむことのない資産を受け継ぐ者として下さったのである。

:5 あなたがたは、終りの時に啓示さるべき救にあずかるために、信仰により神の御力に守られているのである。

-1ペテロ3:9 悪をもって悪に報いず、悪口をもって悪口に報いず、かえって、祝福をもって報いなさい。あなたがたが召されたのは、祝福を受け継ぐためなのである。

使徒時代のクリスチャンが神の国を受け継ぐものであるという自覚にふさわしい生きざまを大切にしていたのです。

1:12 それは、早くからキリストに望みをおいているわたしたちが、神の栄光をほめたたえる者となるためである。

どこで？ いつ？ それは来たるべきキリストが来られる日です。必ずその日は来ます。だから、ペテロは語ります。

1ペテロ4:7 万物の終りが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい。

Ⅲ. 聖霊の保証と喜びをくださること

1:13 あなたがたもまた、キリストにあって、真理の言葉、すなわち、あなたがたの救の福音を聞き、また、彼を信じた結果、約束された聖霊の証印をおされたのである。

聖霊さまは目には見えません。けれども覚えていてください。この方はもっとも私たちに近くいらして、うちにいらして、わたしたちと共にいてくださる方です。そうして、わたしたちの信仰を支え、神さまが一番だと示して下さり、いくつもの気づきを与え、癒しを与え、また道を示し、祈りを引き上げ、聖書に目を開かせ、また感謝を与え、思いやりをあたえ、赦しを下さり、心からの愛を与えてくださるお方です。この方は、わたしたちのリアルな生活の中だからこそ、より鮮明に私たちの生きざまに影響を与えてくださるお方です。

聖霊によって支えられる信仰生活をパウロはこう表現しています。

ローマ5:3-5

それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。

そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。

もし、神の愛から遠ざかっていると思うなら、どうか聖霊を求めてください。この方が、キリストの愛を思い起こさせてくださいます。

信じる時に、そして信じて生きる中で聖霊は、わたしたちが神に愛されていることを、また 祝福を受け継ぐものであることを示してくださるでしょう。

1:14 この聖霊は、わたしたちが神の国をつぐことの保証であって、やがて神につける者が全くあがなわれ、神の栄光をほめたたえるに至るためである。

さいごに)

今日3つのことをお話ししました。「キリストに望みを置く人」には

- I. 神が思いを示してくださる
- II. 御国の相続者としてくださる
- III. 聖霊の保証と喜びをくださる

最初にお話しした、俳優のデンゼル・ワシントンが、最近洗礼を受け、また同時に牧師になるための資格を取得した…という不思議な、時間の圧縮。それを少し紐解くような彼の数年前のスピーチがありました。

ある大学で彼が学授与式でのスピーチです。卒業して旅立つ卒業生へのスピーチで、YouTube上では、約3780万回もの回数再生されているものです。その中で彼は、自分の信仰によって卒業生たちに語り掛けています。

第一声「ひとつめ！ 神を一番にしなさい 何をするにも神を一番に」。そこから始めて、「神とともに歩むことの大切さ」を語ります。その一部に祈りの勧めがありました。

あなたが今晚寝る前に、スリッパをベッドの下ずっと奥に置きますように。そして朝起きてスリッパを取ろうとしてひざまずきますように。

そしてひざまずいた時、「恵みをありがとうございます」と言ってください。

「情けを、理解を、知恵を、親を、愛を、優しさをありがとうございます。」と

「謙虚さを、安らかさを、成功を、これら私のものになるすべてに前もってありがとうございます」と。

私はこのように日々過ごしています。そして、今ここにこのように私がいるのは、このような祈りの為です。

将来の祝福された望み、キリストに望みを置いて生きることは、今の、そして今日一日の良い生きざまに直結することをぜひ覚えていてください。